

観光立国の実現は、地方（地域）から



座談会出席者

山形・天童温泉	ほほえみの宿 滝の湯	山口	隆子さん
山形・蔵王温泉	扇の館 岡崎屋旅館	伊藤	裕子さん
山形・かみのやま温泉	葉山館	五十嵐	美根子さん
福島・岳温泉	陽日の郷 あづま館	鈴木	美砂子さん
茨城・五浦温泉	五浦観光ホテル	村田	知世さん
新潟・村杉温泉	風雅の宿 長生館	荒木	紀子さん
新潟・湯田上温泉	ホテル小柳	野澤	邦子さん
群馬・伊香保温泉	ホテル松本楼	松本	和子さん
群馬・草津温泉	ホテル一井	市川	薫さん
栃木・那須温泉	松川屋 那須高原ホテル	廣川	登美子さん
栃木・湯西川温泉	本家伴久	伴	玉枝さん
栃木・鬼怒川温泉	花の宿 松や	臼井	静枝さん
栃木・日光湯元温泉	奥日光 小西ホテル	小西	令子さん
静岡・浮山温泉郷	坐漁荘	松本	美代さん
鳥取・三朝温泉	三朝館	名越	信子さん
広島・鞆の浦	人生感が変わる宿「こから」	内海	愛子さん

が、結果的に人お見



市川さん

が、結果的に人お見



廣川さん

が、結果的に人お見



小西さん

が、結果的に人お見

震災と女将

「自粛の自粛」呼びかけ 県内の女将全員が団結



鈴木さん

が、結果的に人お見

特に、県立高校野球部の3年生4人が最後の高校野球のために親元を離れて当館で共同生活を営むことになりました。この人のお母さん役になるのは、お母さん役を始めたんです。高校生の男の子で、口数は多くないですが、試合が近くなってきた頃、お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。

市川さん 震災で、私たちの商売は平和産業なんだということを感じました。11年はお客さんが増えてきましたが、12年がどうなるか心配して、お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。



臼井さん

「ターム温泉のポンプも使えなくなったので、3月には8日間クローズしました。土日の計画が狂ってしまったので、お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。

社長の「自粛の自粛」呼びかけに、女将たちは一斉に賛同しました。お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。

食生活も変わりました。お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。お母さん役を任せてもらいました。

LION

もっと快適に、さらに心地よく

業務用

ライオンの業務用アメニティ&衛生関連商品。

全身洗浄剤・シャンプー/リンス など

植物物語

一洗成分の100%が植物生まれー

ボディソープ

シャンプー

コンディショナー

化粧石けん

天然ハーブ配合。植物生まれの洗浄成分が、たっぷりクリーミーに泡立ち、やさしくさっぱりと洗いあげます。

ハンドソープ等 清掃・洗浄 その他

手指の衛生

キレイキレイ 薬用泡ハンドソープ

キレイキレイ 薬用ハンドソープ

洗剤と手洗い

ジョナ フェイス&ハンドソープ

浴室・トイレ

バスルック

トイレルック

排水口

パイプマン スムースジェル

線室内・きぼ掃除

ガラスルック

おそうじルック

ライオガードアルコール

業務用の厨房、クリーニング、施設などの洗剤の販売と理想的な衛生管理の実現を支援する

ライオンハイジーン株式会社

本社：東京都墨田区錦糸1-2-1 TEL03(5819)8005 http://www.lionhygiene.co.jp

和漢植物でかなえる、雪の肌。

多くの女性を魅了したスキンケアがついに、アメニティとして登場。

薬用雪肌精

乳液

化粧水

洗顔石けん

薬用雪肌精 スキンケアセット

化粧水

乳液

洗顔石けん

コーセーコスメシア株式会社

東京都中央区日本橋1-16-11 〒103-0027 TEL.03-5200-8421 FAX.03-5200-8420

観光立国の実現は、地方（地域）から

震災と女将～私はこう感じた こう変わった



（15面続き）
松本（美） 本当に痛々しく現場の話とはま、伊豆は違っておりました。伊豆あたりも電車が止まり、計画停電の指令が出ました。実際に電車が正常に動き出したのは7月1日からでした。3月11日は地震の揺れに気がなかった人もいるほどですが、すぐにテレビを見て大変な惨事と分らんかった。お客さまはもうキャンセルです。計画停電も数時間前まではやるかないか分からない。あの計画が流れるたびにお客さまはストップしました。そこで即一審地元のお客さまに向け、手頃な値段設定で、お部屋滞在（お食事をセ



松本美代さん

な経費の削減のため、夫と妻の生活費を社員に求めた。例えばお花ちゃんに電話はもとより、みんなに電話もする。みんなに電話するのには、電話代が結構かかる。だから、電話代を社員に請求した。お花ちゃんに電話するのには、電話代がかかる。だから、電話代を社員に請求した。お花ちゃんに電話するのには、電話代がかかる。だから、電話代を社員に請求した。

います。
荒木 震災以来私どもも予約は全部キャンセルでした。とにかくくしくう月はほとんどキャンセルで新しい予約は何にも入ってこない状況でした。ところがあすは社内員に従業員全員がいる必要はないので、バートの方に、時休んでもらうようお願いしました。ただ朝ひとくち復帰してもらうことができた。
実は当館では月にディーナ



野澤さん

うなんです。でもその方たちは、「今日あつて明日ない命。今回もあつていつ状況の中で出かけてきたんですよ」とおっしゃった。それを聞いて、一日一日を大事に有意義に生きなければダメなのだと思ひました。明日死ぬかもしれないというのは老若男女に共通することです。7年前の新潟県中越

のような感じで災害が続くお客さまも減ったのですが、このころにお客さまが戻ってきて来たのかなと感じておりました。震災当日、私たちは、長岡の花火を上げるために新潟県の知事と一緒にハワイにおりました。夕食時に地震の発生を電話で知らされて、もう新潟の被害がひどいかもしれないので、「被害者どうだろう」と心配しました。旅行会社の人が特別に用意してくださった電話で、ものすごい津波が発生していることを知りました。飛行機は全数飛ばないの



名越さん

社員に一生懸命節電をかけていたのですが、なかなか徹底しなかったんですね。でも今回は国を挙げての節電なので、社員にはいい教訓になりました。どこも照明は消えています」「これで十分だなあ」と。昔の日本に帰ればいいんじゃないかなというのが実感です。



内海さん

私たちがも半分くらい先んずうなっちゃうのかのかわからない。松とともも大きなショーツを着て、でも少しずり下ろしてきておられます。

一人だけ、一館だけでは何もできないものですから、地域と一緒にあって、特

に青年部が一生懸命にイベントをするな

らんどがなはってあります。そして、だんだん回

復に向かうのではな

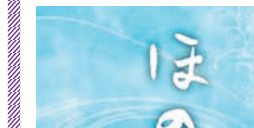
いかと思っていま

姿を拝見するたびに、こちらが励まされておりました。

震災によって何か一つの大きな区切りのようなものが日本に來たのではないのでしょうか。それは日本全体に波及していくもので、何かが変わるんだというお気持ちでおります。その中心でござるところの阿部さんががんばっているというのは、私個人として大きな喜びでした。これからも大変な状況ではあると思いますががんばってほしいし、応援を続けたいと思っています。

す。

伴 旅館業というのは、女性女将が主役だと思えます。大きな災難を与えられても、耐えて、切り開いて、なお伸びていくという精神力を持たなければ、女将（にようしやう）と書名の役目を務



めてはいけなくと改めて感じます。

旅船業界は未だに大変な状況ですが、全国につながるこの会の女将さん同士、情報を共有しながら力強い信頼を守っていきましょ。



ほのぼの会とは

ほのぼの会（世話人代表＝伴玉枝、本家伴久）は女将の顔が見える日本旅館が参加し、1999年に設立した。現在全国の48軒が加盟している。

中心事業は、「女将がすすめる女将の宿」と銘打った、料金、女将の顔写真入りのポケットサイズの共同パンフレット―写真―によるスタンブ事業。指定料金での直予約宿泊に対し宿泊スタンプを発行。スタンプが10個たまったら利用者をペアで希望の宿に無料で招待している。

ほのぼの

四季の物語と、
あふれたくいのべで、
あふれたくいます

大時代篇(上)
女将の宿

旅館業というのは、女
めてはいけなと改め
ます。

被災地での旅館、女将の役割とは

ホテル観洋・阿部憲子さんが語る



ホテル観洋から見た南三陸町



阿部さん

東日本大震災で多くの地域が壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町。ライフラインが寸断された中、町内内の高台にある南三陸ホテル観洋で、利用者の安全確保などの陣頭指揮を執ったのが、女将の阿部恵子さんだ。被災地での旅館の役員。そして町の復興への思いを、自身も「員であって客ではない」日本旅館国際ホテル会」の会員に向けて阿部さんが語った。2011年12月6日 南三陸ホテル観洋

3月11日、私は海が一 泥、町
望まざるフロアでお客さ 覆い、
まど打ち合わせをしてお 襲つて
りました。午後2時46分 りにし

阿部さん
私はお客さまを避難誘導しました。海が墨色に変化して、ぐんぐん盤の上に建ており、玄と水位が上がったので、館内の者は比較的冷静に行動できました。その後大きな波がいくのを目の当たりにして、反対側の国道もぐに強い揺れを感じまして、も早く危険区域から逃げたほうがいい」と祈るような気持ちでした。そのうち住民の方が当館を目標してどんどん逃げてきました。当館は高台で、岩

当日は夫である副社長が気仙沼へ出かけており、私がさまままなことに待たないで対応せざるを得ない状況でした。電気も水も止まった中で、当日従業員に話したのは、心を強く持てほしいということ、物が手に入らない状況なのであるもので対応しなければならぬということ、お客さまと住民の方が優し、譲り合いの精神で協力してほしいということでした。食べ物については近所の方も当館にどんどん来られるかもしれないので、調理責任者が今ある食料で1週間分の献立を立てるよう頼みまし

人口流出くい止めへ、衣食住提供に腐心

新しいコミュニティの場づくりを意識

人口流出止めるため
民間の避難所に

当館を運営するには普通の川で洗濯をしていた当館も尽力してくださる300トの水が必要なのです。なんとかしたい、当館が避難所ですので、まだまだ厳しいと思っていた時に、インということで設置して

安否確認も、高齢の方
口流しに断じてもかけた
り上、頼りの固定電話も
てないので行って避難
が限られていますので、
状況しるが、何とかな
タネットで、洗濯支援
たまで。これであ
呂にようやく毎日レ
呂に入れ、トイレも外
はな、館内のすべてを
用できようになりま

ボランティア団体が仙
にある分かったんで
呂に月一、トイレも外
はな、館内のすべてを
用できようになりま

を回るしかない況で入浴は週間に2回、おたが、毎日川で洗濯した。当館の「歓迎」の手洗は決められた場所と外のトイレに使用を限定しました。食事も紙コップと紙皿で、限られたことにまとめて当館の車に運びました。この支那では1週間お世話になることがありますが、学本には貧乏出しができて、実家は3人の装具は3人よ準備が出たがうなっています。被災地は水困って水不足です。責任は誰が難しかったた

ただいましよ。別棟にサ
ブの風呂があるのです
が、安全確認ができたの
で給水車が来た時点から
近所の方に入浴してもら
いました。これは大変喜
びました。これは大愛畜
舎の直後から、住民の方
が当館を頼って来られま
した。「私たちが衣食住
を提供する職業はこうい
う時に役目がある」と強
く感じ始めました。学校
などの避難所の方にも入
浴してもらいたいとお願
いし続けて、ある企業の
ご厚意で水を30、使える
ようになりました。

生がいる家庭と、経営者
の方たちを中心にお世話
したいと申し上げたの
です。子供たちがなくな
ると将来の復興の担い手
がいなくなってしまう
し、経営者の方がいま
くなくば雇用の場が失わ
れ、また生活の利便性を
回復するにも時間がかか
る考えたからです。

水がないというのは非
常に深刻な問題でした。
食中毒や感染症の発生を
水なしで防がなければい
けないというのもありま
したが、洗濯が問題でし
た。みんなが町内のあら
まいた水がないので冷
設備も使えず、夏の初
には暑さを何とかして
しいとの声がたたくん
ままた逃げてきて、体
も厳しくなっていました
ので、川で洗濯、冷居
し、衛生状態の悪いト
れといった環境では非
常な時に、海水を淡水
に変える装置があるこ
を知りました。責任の
なかなの問題でなか
ん答えが出ませんで
が、何とかお願いし、

でしょう。非常に優秀な装置があるのに、困っている人になかなか結びつかないというのは残念なことです。

避難所として旅館・ホテルは、学校や体育館よりほど快適な空間を提供できるのですが、公の避難所でないために、物資が余っていても、物が足りないとの苦情が出なければ、当館にはベットのボトル一本届かないんです。非常時に、行政が平時の判断しかできないところにがっかりさせられることもありましたので、進めてきました。

少しうとうという気持ちで、たの



館内に設けた図書コーナー

生に宿願を遂げていたみたいです。4月23日には小さな食事屋を再開しました。紙、皿、紙コップ、限定メニューでした。お客さまが来なかっただろうと思うところでしたが、「営業中」と大きく書いた看板を持って道路に立つてくれようになりました。お店がなくとも動ける人は動き始めています。被災地ですので。「観光」という言葉も慎重さが求められる傾向にあります。野が広い。たくさんの方に来ていただき、意識して交流人口を増やすことに

知恵を絞りと、とにかく前に動き始めるものとみなす

提仕に腐心

くりを意識

も被災地は、個人・企業だけでなく、自治体も弱体化しているんです。建物も書類も失って、そして職員もたくさん亡くなって、行政としての体をなしていないという現実もあるんです。

地域住民が集う場としての旅館

とにかく私たちに何ができるだろうということの日々考えながら、できるところは何でもチャレンジ

避難所にならずぐずぐずお母さんたちから、外縁緑石や体育館の床勉強会の子供たちの環境について悲鳴を聞ききました。そこで当館(空いた部屋を勉強部屋)屋敷でもらおうと考えました。大学生にも来もらえることになり、当館8階に「寺子屋EPPRCO」を開設しました。今約10人ほどですが、当初は100人以上が来学していました。安全な環境の中でも、ここに来れば

また当館にいる間、楽しい時間を過ごしていたのだと、さまざまな支援もいただいて、コンサートやお芝居、手芸教室なども行ったところ、皆さん自ずと部屋から出て来しまれるようになりました。その時に、当館が新しいコミュニケーションの場なのだと思っていました。

年配の方は、携帯電話もないのでお友達やお知り合いと連絡の取りようが当館にないですね。そこで当館に来て、友人同士時間を過ごしてもらおうと仮設住宅を無料で回るバスを運行しています。また仮設のお風呂は小さいので、60歳以上の方にはバスを決めて無料で入浴し、自営業者も隣町に店

辛いことや悲しいことがあっても気持ちを切り替えることもできます。それに私たちのような南荒は、泣きたくても笑顔でと前を向いたり、気持ちを立たせることもできるようになりました。

復旧、復興のためにこの町を見てほしい

住民が希望を持つうちに、復興のスピードがなかなか上がらず、被災地地区は二地がまだ立ち上りません。被災地地区は二地がまだ立ち上りません。被災地地区は二地がまだ立ち上りません。

被災者の人達は皆、皆さんにもっと現地を見てほしいと言っています。皆一人ひとりが壮絶なドラマを持っているです。本当に津波の被害は恐ろしい。この町は昭和35年にチリ地震津波の被害に遭っていたんですが、残念ながらその記憶を風化させてしまっています。

日本はさまざまな自然災害に向き合っているが、被災地にはない国です。今は役に立つことがたくさんあります。「わがごとくのように」考えていただくことが大事だと思います。この被災体験を風化させてはいけません。い、きっちり語の継いで、今後に生かしてもらいたいという思いです。